

実践校 高松市立古高松中学校

単元名 第3学年 球技「ベースボール型」

1 単元でめざす生徒の姿

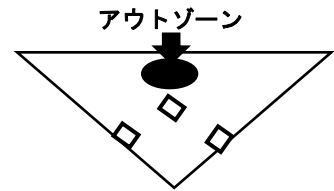
打つ・走ることの楽しさを味わい、「点を取る喜び」を実感し、その実現に向けて自己やチームの課題や解決策を考えることができる。

2 3つの“対話”の実現に向けて

① ベースボール型の魅力や面白さを全ての生徒に味わわせるために

体力差、技能差に関係なく全ての生徒が容易にバット操作を扱えるようにするために軽量で柔らかいバットを使用する。また、ボールへの恐怖感を和らげるために通常のソフトボールよりも柔らかい素材のボールを使用する。本単元では、ティースタンドを使用してバッティングを行う。止まっているボールを打つことによって、バットがボールに当たった喜びや、点を取る喜びを全ての生徒に味わうことができるようにする。そのほか、ベースボール型の魅力や面白さを味わうことができるように下表のような工夫を行う。

項目	工夫点
チーム	・ チーム編成は、男女混合4～5名。
攻撃 (走塁)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打者1巡（多いチームの人数に合わせ）で攻守交代とする。 ・ 打つ際にティースタンドが倒れたり、ファール、空振りになったりすると2回まで打ち直しを可とし、3回目はアウト（0点）とする。 ・ 打った後は、反時計回りにベース代わりのコーンの外側を走る。守備側がボールをアウトゾーンに運ぶまでに1塁まで行けば1点、2塁2点、3塁3点・・・と増えていく。ホームまで帰ってくると2周目に行つてよい。ただし、守備側がアウトゾーンにボールを運んだときにバッターランナーが塁間にいた場合は0点とする。 ・ ベースコーチを配置し、進塁等の判断をバッターランナーに指示する。
守備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 右図の場所にアウトゾーンを設置し、そこにボールを運んだ時点でアウト成立とする。 ・ フライをノーバウンドでキャッチした場合は0点とする。



② 自己やチームの課題解決をめざして

試合を重ねるごとに、生徒が疑問に感じる「なぜ勝てないのか」という課題を解決させるために、分析シートや前時までの試合映像をタブレットで活用する。最上位チームと最下位チームの違いを生徒が発見し、課題解決につなげる。最上位チームは2点以上の進塁が多いということ、打球がアウトゾーン付近に飛んでいないということ、走塁の判断が重要であることを共有し、本時の課題学習である「2点以上取る」ことが実現できると考える。

3 学習指導計画（全11時間）

時	1	2・3	4・5・6	7(本時)・8	9・10・11
学習活動	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的技能の習得 ・ ボール操作 ・ バット操作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試しのゲーム ・ ランナー判断なし ・ ランナー判断あり 	基本的技能の習得	
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 取るためには ・ 2点以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーグ戦 ・ 反省 ・ まとめ

4 研究授業について（本時 7 / 11 時間）

① 本時の目標

- 2 点以上取るための攻撃を、自己やチームで発見し、解決に向けての策を考えることができる。
- 課題解決に向けて、チームで協力して、試合や話し合い等に取り組むことができる。

② 学習指導過程 (○配慮事項 ●おおむね満足できると判断できる状況 [] 評価方法)

学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 ウォーミングアップ</p> <p>(1) 準備運動</p> <p>(2) バッティング練習</p> <p>2 本時の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットや分析シートを通して、2 点以上取れている生徒と 1 点以下の生徒の違いを発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームで統率した動きをとらせ、チームプレイを心がけさせる。 ○ 足の向きや立つ位置によって、打球の飛ぶ方向が変わってくることを確認させる。また、安全に留意し、バットを振るよう助言する。 ○ 前時の試合を振り返り、最上位チームの 2 点以上取っている生徒と最下位チームの 1 点以下の生徒の特徴に気づかせる。
<p>2 点以上取るためにどうすればよいか。</p>	
<p>3 チームで本時のゲームの作戦を立てる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両サイドの線上を狙って打っていこう。 ・ 徹底的にゴロを打っていこう。 ・ 走塁は、無理してでも次の塁を狙っていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワンパターンの攻撃にならないために、個々に応じた攻撃ができるように一人のことを全体で考えさせる。 ○ 作戦ボードを用いて、全員が話し合いに参加するように助言する。 ○ 勝てていないチームに対しては、教師も入って助言する。
<p>4 試合を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 攻撃に入る前に毎回、30 秒ほどの作戦タイムを設ける。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2 点以上取るために、ミーティングやゲームに積極的に取り組もうとしている。 [観察] ○ 試合中は、分析シートに責任をもって、データを記入させる。 ○ 攻守交代は走って行わせ、スピーディーな試合展開を意識させる。
<p>5 本時のまとめを行う。</p> <p>(1) チームでのミーティングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のゲームを振り返り、反省点や良かった点を話し合う。 ・ 次時の課題を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い活動の効果や 2 点以上取ることができた生徒が多いチームを取り上げ、学び合いの大事さを感じさせる。 ○ うまくいかなかったシチュエーションを理解させ、次の試合を想定した話し合いを行わせる。
<p>(2) 個人で本時の振り返りを行う。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 点が入ったときの打球方向や進塁数をまとめて分析し、効果的な攻撃を見つけ出し、改善策を具体的に考えることができる。 [ワークシート]

5 研究協議会について

【授業討議会】

- 女子だけでソフトボールをするより、男子と学習することで女子の技能習得やルールの理解が早かったと感じた。
- 打てなくても笑顔で次の打席に立てるということは、教材に魅力があると思った。
- 班活動を中心に活発な他者との対話があった。
- お互いにフォローし合って、苦手な生徒もよく活動していた。
- 男女共習で能力の差があるにも関わらず、よく生徒の特性を捉えた授業作りができていた。
- ゲームの中でよかったことは、生徒が「やりたい」「バッティングをしたい」という意欲があるので、攻守交代のとき、走って守備位置に走って行っていた。
- ▲ 遠くに飛ばすために、バッティングフォーム習得の学習も必要だと思う。
- ▲ すぐに答えを与えるのではなく、生徒の中から答えがでるまで待つことの大切さに気づいた。

○…良かった点 ▲…今後の課題



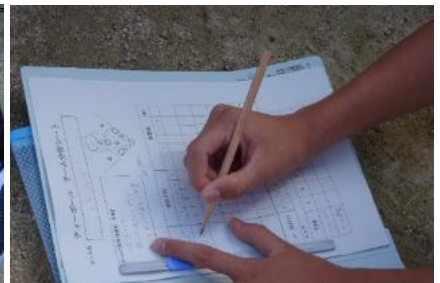
教材との“対話”

ティースタンドを利用したり、アウトの取り方を工夫することで、運動の苦手な生徒も意欲的にゲームに参加することができた。



他者との“対話”

データをもとに話し合いが行われるため、運動の苦手な生徒も積極的に話し合いに参加することができた。



自己との“対話”

打撃結果等を記録したデータ資料から、自己やチームの課題を発見することができた。

【指導・助言】 淀谷 茂（高松市教育委員会保健体育課指導主事）

- ・ 教材の工夫（ボール、バット、コート3面）がなされており、安全面への配慮があった。安心して活動できる工夫がよかった。
- ・ ルールの工夫では、ティーボールのルールとは違い、生徒の能力に合ったものであった。
- ・ アウトゾーンの設定については、能力の差を考慮し女子でも活躍できるよう、よく考えられていた。
- ・ 相手を責める言葉が出なかった。男女共習だったからかもしれない。
- ・ スポーツライフを身に付けるには、いろいろな人との関わりをする中で身に付くと考える。楽しく活動するためには、男女共習が今後の保健体育に求められているのではないかと思う。
- ・ ゲームの中でよかったことは、生徒が「やりたい」「バッティングをしたい」という意欲があるので、攻守交代のとき、走って守備位置に行っていた。
- ・ 運動そのものを好きにさせれば、生徒たちが生き生きと学習できる。